

地域密着型サービスの自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	愛鍼福祉会の事業計画の理念、基本方針を基に理念を作っている。その中で日々、実践できることを職員間で話し合っって目標として実践に向け、取り組んでいる。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間で話し合い、作り上げた理念を掲示し仕事に入る前に確認している。理念に沿って実践を心がけている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	自治会に入会し自治会と一緒に祭りや運動会を計画、実践し地域の方々との交流を行っている。地域の方々に利用者の理解を深めてもらうよう日々の取り組みについても機会あるごとに取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	加江田2区自治会の総会に出席し顔なじみの関係を作っている。民生委員や近所の方が相談に見えたり、立ち寄ったりされる。隣近所は駐車場を借りたり、電源を借りたりして、協力関係にある。月1回のフラワー教室には地域の方も施設に来られて一緒に行っている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、納涼祭、運動会、敬老会等に参加している。又、毎月1回、農村研修センターに出向き、高齢者の閉じこもり予防として開催される「語ろう会」に参加して、地域の方々と話したり昼食をとったりして交流を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自治会と協力してリージャで夏祭りや運動会を開催し、地域の高齢者に参加してもらった。「語ろう会」では看護師が健康チェックを行い、地域の高齢者の予防に努め、フラワー教室では楽しみの場を提供している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各職員で自己評価を行い、評価表を作成した。前回の評価を参考にして評価の意義を理解し、改善に努めている。	○	今後も評価を元に改善に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員が現状を報告し、家族の代表の方にも家族会の内容を発言してもらっている。運営推進会議で意見を職員全員回覧し、把握している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行き来する機会はめったにないが市の集団指導研修に参加して情報の収集、サービスの向上に努めている。提出書類は出来るだけ持参し連携に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加した職員がミーティングで複命研修を行っている。	○	3ヶ月に1回施設内研修を行っているが今後は専門の方に来てもらい知識を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内にパンフレットを掲示し意識の向上に努めている。高齢者虐待の研修に参加し、管理者、職員は虐待についてはミーティングで話し合いを行っている。	○	3ヶ月に1回施設内研修を行っているが今後は専門の方に来てもらい知識を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族と話している中で理解されていない所はその都度、説明し理解してもらっている。又、面会時には家族の不安等を伺うようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は利用者の声に耳を傾けるようにしており、運営推進会議では家族代表者が利用者の代弁者となって、運営推進委員に利用者の声を届けている。	○	利用者の生の声が届く運営推進会議を開催したい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、行事や報告を掲載したグループホーム新聞を発行し、家族に送付している。毎月の請求書を発送するときに金銭管理の明細書を同封している。受診や体調は看護師がその都度電話で報告している。	○	家族は新聞を見て様子が分かるのでとても助かっていますと言われている。今後も内容の充実に向けて努めていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	三ヶ月に1回家族会を開催している。その中で家族の意見を運営に活かし、職員と意見交換を行っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで職員の意見を聞き、回答できることはその場で回答し、回答できないことは上司に助言をもらっている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員から希望の休みを事前に提出してもらって勤務表を作成している。行事の時は職員を調整して利用者や家族に支障が出ないように努めている。	○	今後、行事の時は地域の方々にボランティアを要請し協力を図っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を作るため、職員の異動はなるべく行わないようにしている。小規模多機能を併設している為、職員が行き来する勤務で戸惑いが生じないよう日々、コミュニケーションを図ってダメージが生じないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階を踏んで研修に参加できるよう一年間の研修計画を組んでいる。資格についても進んでとるように助言している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターのネットワークを通じて地域の同業者との顔なじみの関係作りを行い、情報交換に努めている。又、グループホーム連絡協議会に加入し、情報の把握、客観的な見方、考え方や取り組みができるように努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ミーティングでは自由に発言が出来る場を設けている。自由な空気を大切にしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	本人が行きたい研修があれば申し出るように言っている。本人の能力を仕事に活かしてくれる場を提供するように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	今後入居にあたっては、本人が住んでいた家、地域を知り、馴染みの関係が維持できるように努めていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	○	本人がここに来て良かったといわれる雰囲気作りをこれからも大切にしていきたいと思っている。本人、家族の不安を取り除いていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が来られた時、施設内での状況をお話し、家で過ごされていた時の状況を聞いている。会話の中で本人にとって住みやすい場所作りに共同で取り組んでいる。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が来られた時、施設内での状況をお話し、会話がスムーズに展開するようにパイプ役を行っている。本人の希望があるときは本人に代わって家族に代弁している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が面会に見えた時は、面会簿を見ていただきその時の状況を家族に伝えている。馴染みの関係が継続できるよう努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	9名の個性が一つになることは難しいが職員が間に入って会話がスムーズに行くようにしたり、利用者同士がお互いを認め合う関係作りを行っている。関係がぎくしゃくしてきた時は家族に報告し、共同で解決している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	日頃から困ったことがあったら何でも相談してほしいという関係作りを行っている。契約を終了しても電話があれば相談に乗ったり、会話を行って支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族から希望、思いを把握し、本人の意向を大切にしている。アセスメントはセンター方式を活用して本人の言った言葉に耳を傾け意向を把握している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントでセンター方式を活用して本人のなじみの生活環境、人、その人らしい暮らしの把握につとめ、本人らしい生活ができるよう努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	安心して過ごせるように生活リズムを把握し、変化があるとスタッフ同士で共有し、記録に残している。其々の体力や体調に合わせたその日の過ごし方を把握している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	担当スタッフが中心となって情報収集を行い、本人がより良い生活ができるよう、意見を聞きながら介護計画に反映している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直しと毎月1回モニタリングを職員で行い見直しや新たな計画を作成している。	○ モニタリングを職員で行なっているので家族も一緒に検討する機会を設けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って個別記録に記入している。実践しながら次の計画にいかしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて通院や外出等に柔軟に対応している。季節の行事や毎月の誕生会は愛鍼福祉会合同で行っている。	○	出かける場として、高齢者の施設であり馴染みの場所である人もいて今後も継続していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の定例会に出席し現状報告や行事の案内をしている。地域の消防団と防災訓練を一生に行っている。	○	地域密着サービスを念頭に置き地域に開かれた施設作りを目指し、地域と一緒に歩む施設を作っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人、家族の意向に沿ったサービスを取り入れて支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	家族会開催時に包括の職員に講師としてきてもらい、家族に認知症についての理解を深めてもらっている。	○	今後、権利擁護について専門的な立場から助言等をもらい協同していく場を設けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や利用者の意向にそって其々のかかりつけ医と連携をとっている。協力医の往診もお願いしている。本人の体調はその都度協力医に相談し適切なアドバイスを得ている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族と相談し、症状によっては専門医に受診が出来るよう支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者の変化は逐次、看護師に報告している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は面会を行い医師やケースワーカーから状態把握を行っている。家族、本人の意向を伺うようにし入院によるストレス軽減に努め、早期退院に向けて連携している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化について話し合いを行い、看取りについては、家族から意向を伺い書類として残している。	○	本人、家族の意向を尊重し支援していきたいと思っている。方針を具体化し共有できるよう取り組んでいきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の意向に添えるように、終末期の研修や勉強会を行い最後まで住み慣れた所で生活できるよう取り組んでいる。医療連携加算を本年度から設置したため訪問看護とも協力していく体制を整えた。	○	何が出来て何が出来ないかを早急に見極め準備に取り掛かりたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	情報提供を行い、本人のダメージが最小限に留ま るように努めたい。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	本人のプライドを損なう言葉掛けに注意し、記録 等は他の人の目に触れないよう取り扱いに留意し ている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	日常生活の決定は本人に尋ねて本人に決定しても らっている。本人の意思の尊重に努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	朝、その日の行事をお知らせして本人に決定をし てもらっている。その日の気分、体調、希望に そって自由に自分のペースで生活できるよう支援 している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	その日の着替えは本人に聞いている。理容、美容 はいけるときは出かけているが行けない時は来て もらっている。お化粧を月2回ボランティアの方 にして貰っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを確認し、買物、準備、食事、片付けを利用者と一緒に行っている。職員も一緒に同じ食事をたべて料理の味付けや好みについて話をしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物はお茶だけでなくコーヒーや紅茶など本人が好きなのを摂ってもらっている。食事中は好きなもの、食べたいものを出来るだけ聞くようにしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行い、日中はオムツはずしを行っている。自分でトイレに行けない人はトイレ誘導を行い排泄はトイレで行い気持ちよく過ごせるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	言葉かけして利用者の希望する時間に入浴をしてもらっている。現在、夜間入浴の方はいないが夕食前に入浴される方がいる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個室なので本人の生活パターンにあった生活スタイルをとられている。安心して眠れるように言葉掛けや見守りを行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り、洗濯物ほし、草取り、音楽を聴くなど其々が自分の好きな事が楽しめるよう発揮の場を提供している。	○	小さなことでもよいので本人の役割が本人の楽しみになるよう結び付けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を所持したり使えるように支 援している	お金を持っている人は買物に行ったときは自分で 支払ってもらっている。財布を持っている人は少 ないが家族が「お金を預けているから」と利用者 に伝えており、お金の事を尋ねる人はいる。	○	自分で自分のお金を使う楽しみをこれからも支援 していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひと りのその日の希望にそって、戸外に出かけ られるよう支援している	月1回は外出の日を設けている。遠出は頻繁には 出来ないが天気が良いときは施設近辺を散歩し たりしている。職員が出かけるときは声かけし て一緒に外出している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支 援している	遠出の外出は家族会で話し合っている。今年は宿 泊希望であったが、実現できなかった。家族がこ れない人はヘルパーに付き添いを依頼して家族の 代わりにを務めてもらっている。	○	外出は利用者と職員のみでなく家族も一緒に行け るようこれからも支援していきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支援を している	年賀状は全員書いてもらって家族に出している。 家族からの電話を本人につないだり、本人が自宅 に電話したいと申し出があったときは電話を自宅 へ掛けている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人 たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地 よく過ごせるよう工夫している	家族や訪問があったときは一緒に過ごせる場所を 提供しお茶をだして楽しんで帰ってもらうよう にしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加し、身体拘束をしないケア に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室、共有スペースには鍵はかけていない。自分から外に出られる方には職員が見守り、つきそいをし、自由な暮らしを支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は定時で安全確認を行っている。日中は食事以外にみんなで集まる時間が多い為にその都度確認ができています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤類は倉庫に保管し、数の確認を行っている。夜間は台所のものは手が届かないようにきちんとしまっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎月のミーティングで事故報告を読み上げ、その原因を認識して、再発防止を図っている。服薬については看護師が管理して行っている。防火訓練を月1回実施している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師による応急手当の勉強会を行い看護師不在時の際のマニュアルを作成し、掲示している。緊急連絡網も掲示している。	○	今後定期的に緊急連絡網の確認やマニュアルの手順について学ぶ機会を設けていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回の防火訓練を利用者も一緒に行なっている。地域の消防団と連携し、津波災害時の対応、火災時の対応について一緒に訓練している。	○	今後も地域の消防団と連携して一緒に訓練を行ない連携を深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	転倒の恐れや体調の悪化については看護師から家族に説明し、リスクについても説明している。家族の意向を尊重し話し合いながら対応策を話し合っている。	○	事故報告書だけでなくヒヤリハットも作成し、より安全に生活できるように努めていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎週1回訪問看護、月2回往診、定期受診等で体調チェックを行い、体調の変化に気をつけている。入浴時や排泄時にも本人に変化がないかを気をつけている。変化があった時には速やかに看護師に報告している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明書を添付し、薬の変更があった時は看護師より職員全員に説明を受けている。看護師不在の時は服薬の確認を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック・食事量の確認を行っている。毎日食事以外に10時15時にお茶やコーヒーや紅茶などを飲んでもらっている。毎日園内を歩いて3周から5周歩き、体を動かすように努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行なっている。具合が悪い方には歯科医の往診を依頼している。夜間、義歯は洗浄剤につけている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立表に基づき調理を行なっている。食事量や水分量は職員が把握しており、不足した時は代替えで提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	毎月1回感染対策委員会が開催されており、看護師が出席して職員に申し送っている。マニュアルが作成されている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は使用前に熱湯をかけている。食材は冷蔵庫で保管し、その日のうちに使い切るようにしている。賞味期限の確認を行なっている。ふきんはその都度消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の入り口にはいすを配置して外でも話ができたり、くつろいだりできるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節の花を飾って楽しんだり、季節ごとに七夕やクリスマスツリーなどの飾りをして季節感を味わってもらっている。CDなどで雰囲気作りを行い、居心地がよい空間づくりを行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファが2つ置いてあり、そこで新聞を読んだり転寝して過ごしている方もいる。利用者同士で思い思いの場所で語らいをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	本人が使っていた家具や仏壇、家族の写真、テレ ビ等を持ち込んで、なじみの環境がつくれ、居 心地良く過ごせるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう 換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	居室に換気、空調が設置されており、換気や温度 調節に努めている。夏は早朝、冬は日中に窓を開 けて空気の入替えを行なっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	園内の廊下・浴室・トイレには手すりが設置され て利用者が安全に生活が送れるようにしてある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	其々の持っている能力で新聞を読んでもらう。日 記を書いてもらう。歌集を見ながら歌をうたって もらう。料理をしてもらう。洗濯物をたたんでも らう。等、本人が出来ることを楽しみをもってし てもらっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	雑木林に散歩に行ったり、椎の実を拾ったり、涼 んだり、畑の草を取ったり、作物を採ったりして 楽しんでいる。隣接しているヘルパースステーショ ンに遊びに行ってお茶を一緒に飲んだりしてい る。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設して3年目を迎え、地域に密着した施設が出来上がってきているとおもいます。地域の協力、支援と、事業所からの地域への支援で、信頼関係が築けるようになりました。地域が元気になるように職員の質のアップを図り、地域支援に取り組んでいきたいと思っています。